

São Paulo Debut

ステージに立つ。Villa Marianasのサンパウロ・デビューだ。

某大手自動車メーカーのブラジル幹部社員がバンドマスターを務める集客力絶大のアマチュア人気バンドの前座である。場所はレストラン・バーが混在するモエマ地区にある老舗ライブハウス。「日曜日夜ではあるが200人は集まるだろう」との前評判だった。緊張が高まる。頂いた時間は30分。6曲を選んだ。途中、ドラムのT氏によるバンド紹介・曲紹介を含めてぴったりのはず。

バンド名 Villa Marianas は、練習スタジオがある住所名からとった妥協の産物。Heartbreakersにしようとの私の提案は却下され、盛り上がらない議論の末の Villa Marianas である。当初メンバーは4名であった。しかし、再三の説得も叶わず、「主演バンドとの格の差、実力の差」を理由に1名は参加に至らず。急遽3名編成でのアレンジで本番に挑むこととなった。

たまたま飲み会で音楽の話題で盛り上がり、「僕、ベース持ってます」、「えっ、じゃ今度日本に帰ったときに持ってきたよ」、「いえいえ、サンパウロのアパートにあります」の会話でベーシストが確定。同

業の懇親会で、「ドラム叩く人探してるんですよえ」、「えっ、私叩きますよ」でドラマーが決定。この後、月に一度のペースでスタジオ練習することに。

練習の後は、スタジオの向かいにあるバーでビールを飲みながらの反省会となる。ここで練習での反省点、次回の課題で盛り上がるのだが、これがたのしい。ラテン調の一曲は途中変拍子があり、なかなかリズムが合わない。ギターソロの終わりが常にズレる。ベースの入りが遅れる。ドラムが一小節早く先に進む。なぜ合わない！？しかし、この試行錯誤がたのしい。練習は録音してウェブ上のファイルで共有され、各々がそれをダウンロードし自らの演奏の失敗を確認、個人練習の課題とする。仕事以上の努力だ。

友達の友達つながりで我々の活動が某大手自動車メーカーのブラジル幹部社員の耳に入ることとなり、「前座やらない？」と誘って頂く。もちろん「やらせて頂きます」の即答。そして、今、ステージに立っている。

「200人以上は入ってるなあ」、「ゆっくりいこうな！」、「楽しんでいこうぜ」。

5分超過、35分間のサンパウロデビューであった。

(Mauricio)